

第4回城東学園新たな学園づくり地域検討委員会資料
～城東学園小中一貫教育研究の取組について～

1 経過

- (1) 平成 23・24 年度 掛川市教育委員会指定 「中学校区学園化構想研究」
『学校、家庭及び地域住民の相互の連携協力による地域文化の創造を目指して』
- ア 取組内容
- (ア) 地域の教育力や特色を生かした教育活動
- (イ) 地域の支援体制の確立
- イ 成果と課題
- (ア) 成果
- ・ 地域の子どもたちへの関心の高まり
 - ・ 保幼小中連携により、子どもの 15 年間を考えた一貫性のある取組
 - ・ 5 歳児、小 5・6 年の交流機会を増やすことで、小 1・中 1 ギャップの軽減
 - ・ 学校支援ボランティアへの期待（少子化に伴い教職員数が減少）
 - ・ 掛川市内の全小中学校への波及効果
- (イ) 課題
- ・ 子どもたちへの学習のルールや地域文化の浸透
 - ・ 学校や家庭が 15 年間を見据えた「一貫性のある教育」への意識向上
- (2) 平成 25～28 年度 学園化構想の研究成果を、全学園での取組に発展
- ・ 城東学園では、研究成果の継承及び発展
- (3) 平成 29～31 年度 掛川市教育委員会指定 「小中一貫教育研究」
- ア 平成 29 年度
- ・ 掛川市より「小中一貫教育」の研究指定を受け、研究を開始
 - ・ 小中一貫教育研究組織の確立、目指す子ども像のまとめ
「城東を愛し、未来をたくましく行き抜く子ども」
重点となる必要な力 「コミュニケーション力」
 - ・ 英語・道徳・総合的な学習の時間のカリキュラム検討（小小の横の連携、小中の縦の接続）
- イ 平成 30 年度
- ・ さまざまな交流会を実施することで、同年代の仲間と合同で活動するよさやコミュニケーションの進化を図る。
合同自然教室、キラリ！ふれあい交流会、陸上交流会、総合的な学習・外国語交流会、交流遠足、乗り物探検、合同持久走大会、合同合唱コンクール、入学前交流会、勤労生産活動、音楽授業の支援、中学校説明会、運動会、保護者懇談会 等
 - ・ 各校で、検討したカリキュラムに従った実践
英語、道徳、総合的な学習の時間
 - ・ 教育課程を編成する上で、4 校で共通実践を決定
長期休業日、年間授業日数をそろえる。 週日課・日課をそろえる。外国語活動の時数を 3 小学校でそろえる。

2 成果と課題

(1) 成果

ア 子ども

- ・ 小学校時代にさまざまな交流会を実施しているので、中学校生活を始めるときに人間関係で大きなトラブルが少ない。
- ・ 小学生が、中学生や中学校教員とも触れ合う機会があるので、中学校生活に対して安心して進学できる。

イ 教員

- ・ 小学校と中学校の教職員同士が、今まで以上に協力して指導する意識が高まった。
- ・ 小中学校の指導内容の系統性についての理解が深まった。

(2) 課題

- ・ 交流を実施する際、子どもたちが移動するために時間がかかる。
- ・ 専門知識を生かした指導をしたいが、教師の移動に時間がかかる。

3 展望

- ・ 小中一貫教育の一層の推進を図りたい。